

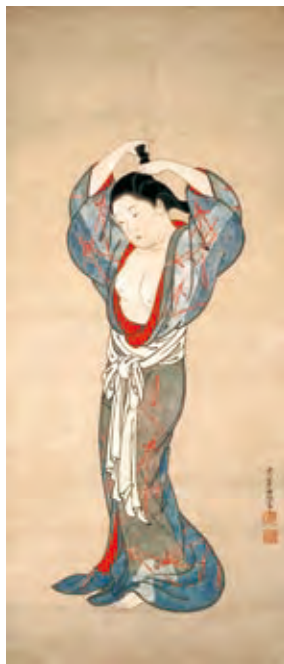
日本初公開! シカゴ ウェストンコレクション

肉筆浮世絵 — 美の競艶

浮世絵師が描いた江戸美人100選

2015年4月14日(火) — 6月21日(日)

浮世絵というと、写楽の役者絵、歌麿の美人画、北斎や広重の風景画、あるいは最近とりわけ人気の高い国芳の武者絵や戯画など、鮮やかな色彩で摺られた版画を思い浮かべる人が多いでしょう。近年、大阪市立美術館においても、2007年の「ギメ東洋美術館所蔵 浮世絵名品展」、2011年の「没後150年 歌川国芳展」、2012年の「北斎 一風景・美人・奇想」など、浮世絵の展示会を立て続けに開催してきました。それらの機会に、実際に浮世絵をご覧になられた方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。



左/扇舞美人図(部分) 江戸時代・17世紀 ©WESTON COLLECTION
 右/髷を直す美人 西川祐信(1671-1750) 江戸時代・18世紀 ©WESTON COLLECTION

しかし、今回の展示会は、同じ浮世絵といっても趣が異なります。タイトルからもわかるように、「肉筆浮世絵」にスポットを当てた展示会となっています。肉筆画とは、絵師が絹や紙に筆で直に描いた絵のことで、いわゆる日本画のことを指すのですが、浮世絵というと版画が主であるため、区別するためにあえて肉筆画または肉筆浮世絵と呼んでいます。このことからわかるように、一点物である肉筆浮世絵は、大量生産される浮世絵版画よりも基本的に貴重なものなのです。また、絵師たちの筆づかいなどを感じることができる点においても、その価値は高いと言えるでしょう。

約130点もの肉筆浮世絵の名品が日本に里帰りする今回の展示会は、浮世絵師たちが精魂を込めて描いた作品をじっくりと鑑賞できるまたとない機会です。アメリカ・シカゴの日本美術収集家ロジャー・ウェストン氏所蔵の肉筆浮世絵は、個人コレクションとしては世界有数の規模と質を誇っており、それらの中から厳選された作品は見ごたえのあるものばかりです。また、その幅の広いコレクションからは、近世初期から明治に至るまでの浮世絵の流れを知ることができます。なお、ウェストンコレクションは今回が日本初公開になります。



美人愛猫図(部分) 葛飾北斎(1760-1849) 江戸時代・19世紀 ©WESTON COLLECTION

「美の競演 浮世絵師が描いた江戸美人100選」という展示会のサブタイトルからもわかるように、肉筆浮世絵には美人が多く描かれています。絵師が筆を用いて1点1点仕上げる肉筆画は、女性の面貌や華やかな衣裳の文様などをより精緻に表現することができる点で版画より優れており、女性の美しさに主眼が置かれる美人画にふさわしい表現方法といえるでしょう。西川祐信、宮川長春、勝川春章、歌川豊国、葛飾北斎、祇園井特、河鍋暁斎など、多彩な絵師たちが筆をふるった美人たちの競艶を、この機会にぜひお楽しみください。

(秋田達也)